

ボルネオの熱帯雨林をたずねて!!

NPO法人 人と自然の会



ダナンバレーの熱帯雨林



① 失われゆくボルネオの熱帯雨林を自分の五感で体感すること、併せて、海外の子供たちを対象に国際交流をすることを目的に、2004年9月7日(火)12:00マレーシア航空MH051便にて、人と自然の会の面々、女性7人、男性4人、平均年齢64.5歳は、勇躍ボルネオに向かって出発した。なんと台風18号襲来の当日であったが、運良く日本を脱出、5時間でサバ州州都コタキナバルに到着。赤道に近いのにそんなに暑さは感じられない。



子供達の真剣なまなざし

② 翌日、サバ大学のスタッフとの交流と子供たちを対象に日ごろ日本の子供たちに行っているボランティア活動を実施。メニューは、封入標本、押花標本、紙漉きはがき作り、葉脈標本作りと折り紙である。現地の子供たちの目の輝きが、私達の疲れも吹っ飛ばしてくれました。



みんなで記念撮影

③ 夕方、コタキナバルの市内の屋台で、現地の家族があっちこちで果物をつまっている。われわれも何事も経験と、並んでいる果物に挑戦。マンゴスチン、ドリアン、ランサック、チャンバラ、ダラ...片端から口にする。珍しい上においしい。皆んな大満足であった。けれども、後のおいしい夕食が食べられなかった人もいたっけ。

④ ラハダツからダナンバレーへ、82kmの未舗装道路をまるで洗濯板の上を飛び跳ねているように車で走る。舌を噛む惧れがあり。5~10分間隔で巨木を運ぶ大型トラックに会う。切り出される巨木の量はものすごい。ほとんど日本へ輸出とのこと。熱帯樹林の減少に心が痛む。

砂煙をあげて猛然と突っ走る



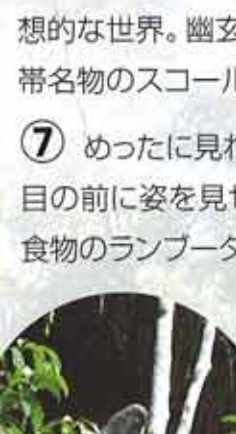
⑤ いよいよ熱帯雨林ド真ん中。ダナンバレー到着。朝、テナガザルの鳴き声で目が覚める。昼は、レインフォレスト・ロッジを中心にトレッキング。夜は、ナイト・サハリ。夢にまで見たジャングルに突入だ。実に色々な動物達に出会う。



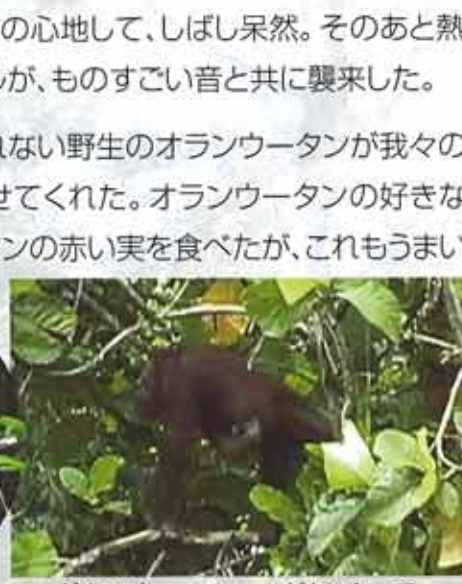
ロッジの前に落ちていた大きな葉っぱ



キノボリトカゲ



カニクイザル



ダナンバレー・フィールドセンターでオランウータンに遭遇

⑥ 地上30mの樹冠にかけられた橋、全長100m。この上から眺めた景色はまるで夢の中。朝もやに煙る幻想的な世界。幽玄の心地して、しばし呆然。そのあと熱帯名物のスコールが、ものすごい音と共に襲来した。

⑦ めったに見れない野生のオランウータンが我々の目の前に姿を見せてくれた。オランウータンの好きな食物のランブータンの赤い実を食べたが、これもうまい。

⑧ テングザル、オランウータン、シルバーラングーン、スネーク・バード、カワウ、ワニ(クロコダイル)に出会う。途中、エンジントラブルで、しばし漂流す。

⑨ レインフォレスト・ロッジに駐在のレジデント・マネージャーからいただいた感謝状。3人がヒルに吸われましたが、痛くも痒くもありませんでした。



ヒルに吸血の感謝状

⑩ 旅はすべてガイドつきで安心、治安はいいし、物価は安い、現地の人は皆親切、イスラムの国ですのでお酒の好きな人は困る時もあるけど、ホテルは大丈夫。食べ物はおいしいし、そんなに暑くもない。ジャングルのパワーをもらいに、ぜひ、もう一度行ってみたい。

⑪ 旅も終わりに近い9月13日、セピロックのオランウータン・リハビリテーション・センターで、餌付けを見学。その際、赤ん坊のオシメに使う日本から持参した古いタオルを贈呈した。大変貴重で、喜ばれると聞いていたので、親善のため持参したもので、



おごそかに行われた贈呈式

早朝6時のキャンピーウォーク

